

@わたし

ニュー金の卵①

ボンと出てきたドーナツのおいしさが忘れられない。
「ものづくりをしたい」と思い始めた原点かもしれない。

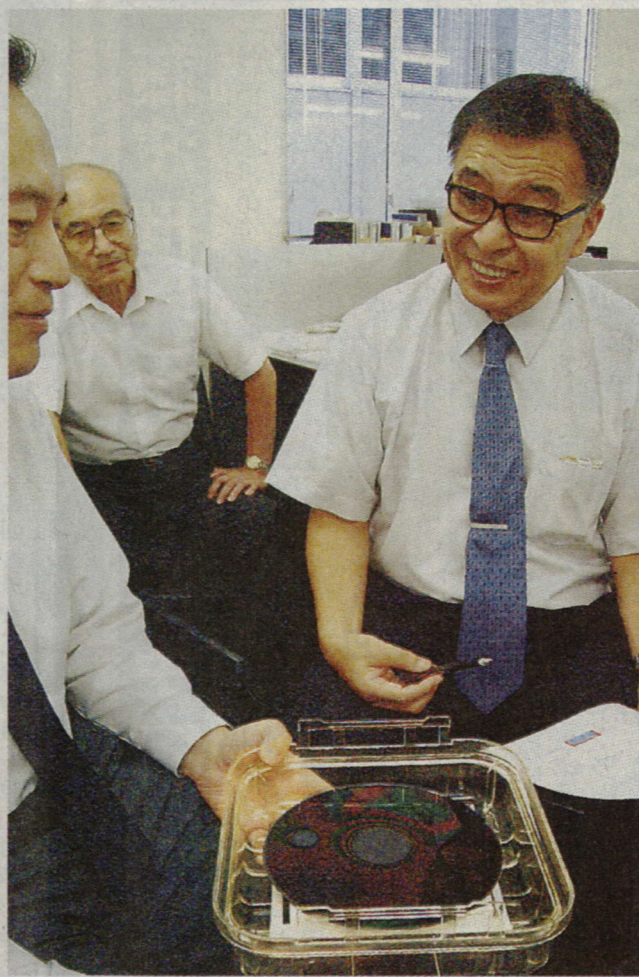
「我が社に来てくれませんか」
一線を退いた60代のエンジニアに、声がかかった。日本経済の活性化には、知的財産権を重視することが必要だ。そのために01年に新設されたという会社「アイ・ピー・ビー」(東京都港区)の社長から経営理念を力説された。

「明日から、毎日来ます」
岩松誠一さん(66)は、即答していた。02年11月のことだ。

技術アナリストとして生活が始まった。企業や個人の客が持ち込んできた特許の技術に、どんな価値があるか評価する仕事だ。

「宝探しですよ。磨けばダイヤモンドになるかもしれない」
日本は世界一の「特許王国」だ。主要先進10カ国の特許の出願数は年間約80万件、日本はその半分の約40万件を占める。だが、埋もれたままの技術がほとんどだ。特許の内容を見極め、どの分野で応用できるかを考え、実用化にもっていく。

特許の山 分け入る鑑定人



同僚と半導体について話す岩松誠一さん(右)＝東京都港区で

自ら発明する立場から、他人の発明の鑑定人へ。宇宙開発、農業、環境……。職場は、様々な分野で技術開発に携わった経験を持つ総勢20人のプロ集団。請われて集まった仲間たちだ。
京都で室町時代から28代続く医者の子孫に生まれた。

大阪府立大学工学部を卒業後、日立製作所に入社した。「鉄は国産なり」の時代、同級生の多くは製鉄関係に進んだ。電機メーカーを選んだのは、新しく面白そうだったからだ。
76年には、集積回路を安く量産する技術開発をめざし、電機メーカー大手5社が参加した国主導の共同研究にも加わった。

60歳で定年退職した後、子会社の嘱託として、取引先の技術指導やコンサルティングをしていたある日、突然、戦力外通告をされた。「もうこたえていいです」
一線を退き、家で芝刈りをする日々。振り返ってみれば「やはり暗かったんだろう」と思う。

「あの若いやつ、すごいな」と素直に思い、潤滑油の役割をしたいと思います。第三の人生、楽しいですよ」(平山重理)

アイデアは面白いが、ものになるか分からない。そんな特許技術を分析し、事業化に向けアドバイスするアナリストには、経験が求められる。「技術開発の分野に長く携わり、のめり込んでやってきた年配の人ほど、人の発明がどんな価値があるものかを判断するのに適している」とアイ・ピー・ビーの川口伸明・首席アナリストは話す。

技術アナリスト

◇体験、意見、感想をお寄せ下さい。連絡先の電話番号を付記して下さい。〈郵便〉〒104-8011 朝日新聞社生活部 〈ファクス〉03-5540-7354 〈eメール〉shigoto@asahi.com

働くふたりの

近所作戦

2人とも日中、家を空ける共働きは、とすると地域で孤立しがちだ。「だからこそ、意識的に近所の人々につきあうことが大切」と話すのは、「夫が書いた失敗しない共働き12の方法」の著者、早瀬誠一さんだ。製鉄所に勤めていた早瀬さんは、共働きで2人の子ともを育てた。

状況次第でノウハウは多少は違うが、夜の掃除や洗濯など、共働きだと思わぬところで隣近所に迷惑をかけがちなもので、最初が肝心。荷物の運び込みでも迷惑をかけるので、あつたしくても引越して当日にあいさつする。タイミングを逃しただけで、後々、気まずい雰囲気になることも多い。「共働きですが、何かありましたらよろしく。何でもおっしゃって下さい」と声をかけておこう。会話の

きっかけになるし、ご近所とのトラブル予防にもなる。防犯上も役に立つ。
あいさつに持っていく品物は、菓子類やタオル、近くのそば屋のそば、プリペイドカードなど。時間がたつても傷まないものが多い。金額は、お返しに心配をさせなくて済む500円から1000円程度。のし紙をつけて、名前を書くのを忘れずに。
相手も共働きなどなかなか会えない時は、「引越して来ましたが、よろしくお願ひします」などと書いたカードを添えて、ポストに入れるのもいい。

「向こう三軒両隣」というが、あいさつの範囲は、一戸建てならば、両隣と向かいと後ろ。マンションなら両隣と、音などで迷惑をかけがちな階下も忘れずに。住宅の場合は、習慣を聞いてから。最近、家を新築すると、建築会社が品物を用意して一緒にあいさつ回りをしてくれるケースも。

「住まいを決める際、主婦の多い住宅は考えもの」と早瀬さん。草むしりやごみ掃除など共同の仕事がウイークデーになることが多い。「あの人はいい人じゃない」とひんしゅくを買わないように。

とごし生活



イラスト・さとうゆり

近所づきあい～作戦その1 引越あいさつはその日に

近所づきあい～作戦その1 引越あいさつはその日に

職場BけいじBぼんS

下戸の新人いたぶる職場

新入社員は私には下戸で、職場の皆にいたぶられます。「オレの酒が飲めぬのか」「努力が足りない」は序の口、エスカレートしていくと「それでも男か」「仕事もダメなら、酒もダメ」と全人格を否定するような言葉を浴びせられます。こんな風潮を何とか改善したいのですが。(さいたま市 会社員 男性 23歳)

煙

「私は体質的にアルコールをうまく分解できず、さらにALDHも少ないのでアセトアルデヒドも分解できません」など化学知識をまくし立て、相手を煙に巻く。または、「先輩と勝負してもいいですけど、場所は銀座、何軒回っても勘定はお願いします」とハッタリをかます。(東京都 会社員 男性 63歳)

土俵

飲み会では劣勢のあなたが、主役になれる。土俵を作ります。カラオケやボーリング、もっと斬新な土俵ならインパクト大。会社の周辺清掃、街の「再発見」地図作り、空き地でのスリ・オン・スリ・バスケットなどどうですか。ちなみに、これらは全部、かつて私の土俵でした。(神奈川県 自営業 男性 55歳)

仮装

知人はビール1杯で真つ赤になり、テンションが上がります。でも2杯目で口数が減り、目は据わって、

日記を書くより面白い！
エッセイ 講座
旅の思い出、身近なエピソード、人生、趣味……などあなたの体験や気持ちを素直な文章にしてみませんか？
本講座では、ごく身近な素材から「ひと味違うエッセイ」を書く方法やコツをやさしく指導いたします。あなたも「うまい」といわれる文章が、短期間で書けるようになります。

案内書を無料でさしあげます
▼住所・氏名・生年月日・電話番号をお書きの上、下記まで
〒164-8722 東京都中野局私書箱1号
東京カルチャーセンター
エッセイ 朝日1J 係
TEL 03-3317-2811 FAX 0120-200-445
(朝日本フローラルアートグループ)